

マリアの信仰・賛歌

2024年12月8日

ルカの福音書 1章5～56節

序：待降節までは、ヘブル書11章の旧約時代の信仰者列伝がテーマ

「信仰によって〇〇は～～」

今朝はその新約版（最初の人々） マリアとエリサベツ

I. バプテスマのヨハネの誕生

イエス・キリストの降誕

(1)父母：祭司ザカリヤと妻エリサベツ
高齢、不妊、敬虔
奇跡的ではあるが、自然(例:アブラハムとサラ)

(1)父母：神（聖霊）と処女マリア
歴史上、唯一無二
超自然的

(2)夫ザカリヤの不信仰
御使いガブリエルから、男子誕生の
朗報の詳細を聞いたが信じなかった
子が生まれるまで口が聞けなくなった

(2)婚約者（夫）ヨセフの疑い・苦悩
夢に現れた主の使いのことばを
受け入れ、イエスがマリアを通して
生まれるメシアと信じ、命令に
従った

(3)妻エリサベツの信仰・喜び
彼女に御使いが現れた記述はない
主が目を留め、不妊の女という恥を
取り除いてくださったことを感謝
5ヶ月間、安静に過ごす

(3)処女マリアの恐れ・戸惑い・混乱
御使いガブリエルからメシアの母
となる神よりの告知を受ける
ヨセフとはまだ一緒になったこと
がない（懐妊は不可能）
父は人間ではなく神（聖霊）
生まれる子は神の御子
不可能のない神に、委ねる

II. マリアのエリサベツ訪問

(1)御使いから、親類のエリサベツが懐妊6ヶ月、男子を宿していることを聞いた

(2)マリアは御使いが去って行った後、ユダの山地のザカリヤの家に向かう

(3)エリサベツがマリアのあいさつを聞いた時、
①胎内の子が踊った
②母エリサベツは聖霊に満たされた

(4)エリサベツがマリアを祝福・歓迎

- ①女の中で、神に最も祝福された方（『私の主の母』）
- ②胎の実（救い主イエス・キリスト）も祝福されている
- ③私の主の母が訪問してくださるとは、なんという光栄でしょう
- ④主によって語られたことは必ず実現すると信じた人は幸い

Ⅲ. マリアの賛歌（マグニフィカート）

(1)わがたましい、わが霊は主でありわが救い主である神を崇め、ほめたたえる

(2)その偉大なる神が、私にしてくださったこと

①卑しいはしために目を留めてくださった

②全時代の人々が私を幸いな者と呼ぶ（救い主の母とされた）

(3)主なる神はどんな方か

①力ある方 ∴大きなことをしてくださる

②御名（ご性質と御業）は聖い

③主を恐れる者に、代々にわたってあわれみを及ぼされる

④高ぶる者、権力のある者、富む者を引き降ろし、追放

⑤へりくだる者、低い者を高く上げ、飢えた者を良いもので満たされる

⑥ご自分の民イスラエルをあわれみ、助けてくださった

⑦父祖たちへのあわれみの約束は絶えることがない

Ⅳ. 結び

(1)真実な神のご計画は、神を信じ、信頼する人々を用いて実現する

(2)不信仰、疑い、苦悩に対しても、神はそれぞれにふさわしい対応をしてくださる
切り捨てるのではなく、忍耐と愛をもって試みを通させ、ご自身への信頼を持つよう導かれる

(3)救い主のご降誕は超自然的（父が神・母が処女）であり、胎に宿り月満ちて誕生、その成長、ご生涯は真の人間として自然的でもある 二面性がある（神人だから）

(4)聖徒たちの交わりの濃淡は、共有しているもの、互いの関係性、共感あるいは理解し合うことのできる部分があるかどうかに影響される

(5)聖徒たちの互いの励まし、慰めは、主がともにおられてこそ成り立つ
エリサベツとマリアはそれぞれ、特別な使命を与えられた子どもを産み、育てる母親（年齢差はあっても）同士、子どもたちはそれぞれ30代前半で死ぬという定めがあった
この二人の祝福された女性たちがともに過ごした3ヶ月は貴重
子どもが生まれた後では、こういう機会は持てなかった

(6)神を賛美するのは、神を信じる者である
個人的に 歴史的に神を信じ知る者